

令和8年7月24日

派遣成果報告書

有田市議会議長 様

議員氏名 一ノ瀬敦子

有田市議会の議員派遣に関する要綱第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

研修名	基礎から学ぶ AIを使った議員活動実践講座
研修期間	令和8年7月22日（水）～ 令和8年7月23日（木）
研修場所	1 全国市町村国際文化研修所（大津） 2 市町村職員中央研修所（千葉） ③ 地方議員研究会（京都市） 4 その他（ ）
研修の成果	別紙のとおり

※ 「研修の成果」は研修内容や所感などを具体的に別葉に作成して添付してください。

※ 研修先から交付される「終了証」等を添付してください。

議員派遣報告書

基礎から学ぶ AI を使った議員活動実践講座

開催日 令和 8 年 7 月 22 日

23 日

一ノ瀬敦子

近年、AI は急速に進化し、行政や議会活動においても、その活用の幅が大きく広がっています。これまで AI は、文章作成や画像生成などの分野で注目されてきましたが、今回の講座を通じて、単なる便利な道具ではなく、情報収集、資料整理、政策研究、質問づくり、住民相談の整理など、議員活動のさまざまな場面で実践的に活用できることを学びました。

講座では、ChatGPT・Claude・Gemini・NotebookLM など複数の AI ツールを実際に操作しながら、基礎から応用まで体系的に学ぶことができ、大変有意義な 2 日間となりました。

◎AI の基本と議員活動への活用

AI の仕組みや特徴、得意なことと苦手なことについて学びました。AI は大量の情報を短時間で整理し、一定の方向性を示すことができる一方で、必ずしも正確な情報を返すとは限らず、誤った内容をもっともらしく示すこともあるため、使い方には注意が必要であることを改めて理解しました。

議員活動においては、日々さまざまな資料や情報に触れる機会があります。条例、予算書、決算書、行政計画、国や県の通知、住民からの要望や相談内容など、扱う情報は多岐にわたります。こうした情報を AI に整理させることで、要点を素早く把握し、論点を明確にすることができると感じました。特に、文章の要約、比較表の作成、論点整理、質問案のたたき台づくりなどは、調査研究の効率化に大きく役立つと実感しました。

また、住民相談の内容を整理する際にも、AI を活用することで、相談者の困りごとを分類し、必要な制度や担当部署を整理するなど、対応の質を高める可能性があると感じました。

ただし、最終的な判断や対応方針は、必ず人が責任を持って確認することが重要であり、AI はあくまで補助的な役割として活用すべきであることも学びました。

◎財政・決算資料の分析

自治体が公表している財政資料や決算資料を AI で整理し、経常収支比率や実質公債費比率などの指標から、自治体の財政状況や課題を読み解く方法についても学びました。これまで数字の羅列として見ていた資料も、AI を活用することで、どの項目が改善しているのか、どこに注意が必要なのかを短時間で把握しやすくなることを体験しました。

特に印象に残ったのは、単に数値を確認するだけでなく、「なぜこの結果になったのか」「今後どのような影響が考えられるのか」「改善のために何が必要か」といった視点を持つことの大切さです。議会での質疑においても、こうした視点を踏まえて質問を組み立てることで、より具体的で建設的な議論につながると感じました。

財政や決算の分析は、行政の現状を把握するうえで欠かせないものですが、資料の量が多く、読み解くには相応の時間と労力が必要です。AI を活用することで、膨大な資料の中から必要な情報を効率よく抽出し、比較や整理を行うことができるため、調査研究の質とスピードの両面で大きな効果が期待できると感じました。

◎公共施設・行政運営の確認

公共施設の老朽化を示す指標や、職員の勤務状況、研修受講実績などを整理・分析する方法についても学びました。公共施設の維持管理や行政運営のあり方は、市民生活に直結する重要なテーマであり、限られた財源や人員の中で、いかに効率的かつ持続可能な運営を行うかが問われています。

AI を活用することで、施設ごとの状況や職員配置、研修の実施状況などを一覧化し、課題が見える化することができます。これにより、現状を客観的に把握し、優先順位をつけながら改善策を検討することが可能になります。議員としては、こうした情報をもとに、行政に対して適切な提案や確認を行うことが求められます。今回の学びは、今後の行政監視や政策提案において大いに活かせる内容でした。

◎NotebookLM を活用した政策調査

今回特に実践的であったのが、NotebookLM を活用した政策調査です。市のホームページや複数の資料を読み込ませることで、一度に検索・整理できる方法を体験しました。従来であれば、複数の資料の一つひとつを確認しながら必要な情報を探す必要がありましたが、NotebookLM を使うことで、関連する情報を横断的に把握しやすくなることを実感しました。

市民相談で必要となる情報は多岐にわたります。こうした情報をあらかじめ整理しておくことで、相談を受けた際に迅速かつ的確に案内できるようになります。また、制度の比較や他自治体との違いを把握する際にも、NotebookLM は非常に有効であると感じました。政策研究の面でも、複数資料をもとに論点を整理し、提案につなげるための強力な支援ツールになると考えます。

◎受講して感じたこと

今回の講座を通じて、AI は文章を作成するための道具ではなく、大量の資料を整理・分析し、課題を見つけるための強力な支援ツールであることを改めて実感しました。

議員活動は、情報を集め、整理し、住民の声を政策へとつなげていく仕事です。その過程において、AI を適切に活用することで、より多くの情報を短時間で把握し、より深い検討を行うことが可能になると感じました。

一方で、AI が示す内容をそのまま採用するのではなく、必ず一次資料や公的資料を確認し、事実に基づいて判断することが極めて重要です。AI はあくまで補助的な存在であり、最終的な責任は人が持つという基本を忘れてはならないと再認識しました。講師からは、今後ますますAIの活用が進み、行政の業務のあり方も大きく変わっていく可能性があるとのお話がありました。その一方で、議員は市民に最も近い立場で声を受け止め、政策として形にしていく役割を担っており、その責任はAIでは代替できないという言葉が強く印象に残りました。

◎今後の議員活動への活用

今回学んだ内容を、今後の議員活動に積極的に取り入れてまいります。財政分析や決算審査では、AIを活用して資料を整理し、データに基づいた質の高い質問や政策提案を行うとともに、市民の皆様にも行政情報を分かりやすく発信していきたいと考えています。

また、AIを活用しながら先進事例の調査や情報収集を行い、有田市にとって実効性のある政策提案につなげてまいります。新しい技術を正しく活用しながら、市民の皆様の声を市政へ届け、より良い有田市づくりに努めてまいります。